

主体的・協働的に学び続ける力を育む探究的な学習の在り方

—探究の過程を取り入れた各教科での授業づくりを通して—

〈探究的な学習研究グループ〉

佐藤 希利子¹、伊藤 剛²、横山 亮³、山田 直人⁴、戸羽 賢一⁵、下山 絵美子⁵、齋藤 光⁵
白石市立東中学校¹、大崎市立古川第二小学校²、南三陸町立志津川中学校³、宮城県古川黎明高等学校⁴、
宮城県総合教育センター⁵

〔要約〕 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るために、探究的な学習などを通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められている。本研究では、「探究的な学習 教師の3つのアクション 教科編」を考案し、実践を通してその有効性を検証した。その結果、教員の探究的な学習に対する理解の深まりや、実践意欲の高まりが見られ、児童生徒の主体的・協働的な学びの充実につながる事が明らかになった。

〔キーワード〕 探究的な学習、探究の過程、主体的、協働的、授業づくり

1 はじめに

令和3年3月の「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」¹⁾では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から従前の授業を捉え直し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を求めている。特に探究においては、子供自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を目指し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供を重視している。さらに、探究的な学習や体験活動などを通じ、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要であると述べられている。

一方、令和3年度から令和5年度の宮城県の全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査では、「調査対象の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した割合は、小学校では9割を超え、中学校では9割前後だった（表1）。しかし、全国学力・学習状況調査では、各教科における探究的な学習に関する学校質問紙調査は行われておらず、実態の把握が難しい現状があった。

表1 全国学力・学習状況調査 学校質問紙
宮城県（仙台市を除く）

年度	小学校		中学校	
	肯定的回答(%)	かい離 県-全国(%)	肯定的回答(%)	かい離 県-全国(%)
R3	95.9	5.2	85.8	-2.3
R4	92.0	1.2	87.9	-1.7
R5	94.0	1.3	92.3	0.2

2 「探究的な学習」に関する実態調査

(1) 目的

宮城県内の学校における「各教科における探究的な学習」に関する実態を把握する。

(2) 調査の内容

- ・方法：Google Forms によるアンケート調査
- ・対象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員
- ・手続き：令和5年6月9日～7月19日まで宮城県総合教育センターにおける研修会の参加者や本研究グループ研修員の所属校の教員に依頼
- ・有効回答数：264（内訳：小学校71、中学校64、高等学校111、特別支援学校18）

(3) 調査の結果から

「課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」という質問に対して肯定的に回答した割合は、「(a)総合的な学習（探究）の時間」では84.1%、「(b)各教科」では

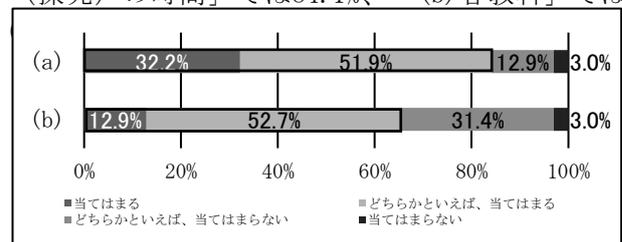


図1 探究の過程が取り入れられている割合 (n=264) *1

また、調査の記述では、「教科の中で学習を進めていくことが可能なかイメージできない」「教科の授業時間の中で、もっと探究的な学習を取り入れたいが、進度との兼ね合いもあり、時間を確保することが難しい」などの意見があった。

以上から、各教科の指導では、探究の過程が意識して取り入れられていない現状が明らかとなった。

3 研究目標

(1) 研究目標

児童生徒の主体的・協働的な学びを実現するために、探究の過程を取り入れた各教科での授業づくりを提案し、実践研究を通して有効性を検証する。

(2) 本研究で目指す児童生徒像

探究の過程を取り入れた各教科での授業づくりを通して、主体的・協働的に学び続ける力を身に付けた児童生徒を育成する。

4 探究的な学習

教師の3つのアクション 教科編

(1) 探究的な学習について

学習指導要領解説総合的な学習の時間編²⁾では、探究的な学習とは「物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営み」であるとされ、「探究的な学習における児童生徒の学習の姿」として一連の学習過程が示されている（図2）。特に、「探究的な学習を実現するため、『①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現』の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視」している。また、「自ら問いを見いだし、課題を立て、よりよい解決に向けて主体的に取り組むことが重要である。他方、複雑な現代社会においては、いかなる問題についても、一人だけの力で何かを成し遂げることは困難である。これが協働的に探究を進めることが求められる理由である」と述べられている。

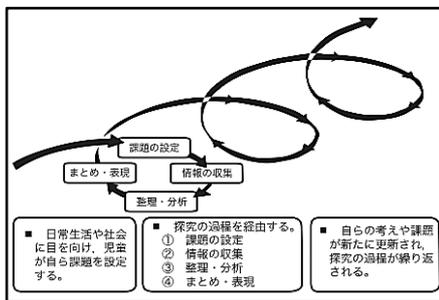


図2 探究的な学習における児童生徒の学習の姿について

本研究では、探究の過程を各教科の学習過程に取り入れることで、各教科における探究的な学習を充実させ、児童生徒が主体的・協働的に学び続ける力の育成につながると考えた。さらに、探究の過程を共通の視点として活用することで、教科を越えて授業づくりのアイデアを共有したり、児童生徒に一貫した課題解決の過程を伝えたりすることができる。そして、授業づくりを進める際に、図2で示された探究の過程を各教科に当てはめ、「各教科における探究の過程」として捉え直した（表2）。

表2 各教科における探究の過程

①課題の設定	単元を貫く課題を設定し、課題意識を持つ
②情報の収集	必要な情報を取り出したり収集したりする
③整理・分析	収集した情報を整理したり、分析したりして思考する
④まとめ・表現	気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

なお、本研究において、「単元」は単元・題材などの内容や時間のまとまり、「情報」は課題解決に必要な知識・技能を含め、判断や意思決定、行動を左右する全ての事柄を指すこととした。

(2) 探究的な学習 教師の3つのアクション 教科編

本研究では、令和4年度専門研究探究的な学習研究グループの研究から「探究的な学習 教師の3つのアクション」（表3）を、各教科の授業に適用できるように「教科編」として捉え直した（表4）。

表3 探究的な学習 教師の3つのアクション

つかむ	探究的な学習の理解を確かなものにするためのアクション
みがく	指導計画を「探究的な学習の指導のポイント」に沿って見直すためのアクションに沿って見直すためのアクション
はしる	児童生徒の主体性・協働性を高める指導をするためのアクション

表4 探究的な学習 教師の3つのアクション 教科編

つかむ	各教科における探究的な学習をつかむ
みがく	各教科の授業をみがく
はしる	授業を実践し、児童生徒のためにはしる

本研究では、各教科での授業づくりの参考となるよう、3つのアクションごとに具体的な手立てを提案する。

① 「つかむ」

教員が探究的な学習に対して理解を深められるよう、探究の過程と各教科の学習過程の対応を整理した。

ア 各教科における探究の過程

探究の過程を取り入れるイメージをつかむ際に参考となるポイントを3つずつ例示した（表5）。

表5 探究の過程を取り入れるポイント

①課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 単元や節を貫く課題を設定させる 体験から疑問や関心を引き出す 単元の計画や内容を考えさせる
②情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 情報の集め方を考えさせる 知識・技能を身に付けさせる 課題解決に必要な情報を集めさせる
③整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理させる 情報を分析させる 考えを出し合わせる
④まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識を持った表現活動をさせる 発表の方法を考えさせる 次の課題を見付けさせる

イ 探究の過程の視点で各教科の学習過程を整理

探究の過程と各教科の学習過程を比較することで、授業づくりの参考となる資料を例示した（表6）。上段には各教科の学習過程と学習指導要領解説で参考にしたページを、下段には取り入れた場面の例を示した。

表6 探究の過程と学習過程の対応（小学校社会科の例）

探究の過程	学習過程
①課題の設定	課題把握 p. 6-7 例：社会的事象から学習問題を見いだしたり、気付きや疑問から予想や仮説を立てたりする。
②情報の収集	課題追究（情報収集） p. 6-7 例：様々な種類の資料を活用したり、他の児童生徒と情報を交換したりする。
③整理・分析	課題追究（考察・構想） p. 6-7 例：社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考える。
④まとめ・表現	課題解決 p. 6-7 例：学習課題を振り返り結論にまとめ、それについて他の児童生徒と話し合う。また、社会生活について理解を深めたり、社会への関心を高めたりする。

② 「みがく」

教員が授業づくりを行う際の参考となるように、探究の過程の視点で、これまでの授業づくりを整理した。総合的な学習の時間が始まる学年に合わせて、対象学年は小学校第3学年から中学校第3学年とした。対象教科は、研修員の専門性を生かし、小学校では全教科、中学校では数学と外国語とした（表7）。

表7 作成対象について

学年	教科
小学校第3学年	社会、算数
小学校第4学年	国語、社会、算数、理科、体育
小学校第5学年	国語、社会、算数、音楽、家庭、外国語
小学校第6学年	社会、算数、図画工作、外国語
中学校	数学、外国語

ア 探究の過程を取り入れた授業づくり

単元全体を見通して探究の過程を取り入れた単元計画例を示した。探究の過程は、常に順序よく繰り返されるわけではない。どの探究の過程がどの時間に取り入れられるかを示すことで、探究の過程を取り入れた単元計画の作成に活用できるようにした。

また、指導過程に探究の過程を取り入れた学習指導案例を示した。具体的な学習活動や、指導上の留意点を明記することで、学習指導案の作成に活用できるようにした。

イ これまでの取組を探究的な学習の視点で整理

指導過程を探究の過程の視点で捉え直すことで、これまでの授業に探究的な学習に当たる部分があることや、少しの工夫で授業が探究的になることに気付き、授業づくりに活用できるようにした。

③ 「はしる」

探究の過程を取り入れた授業実践や、アイデアを出し合う研修会を通して、教員が授業づくりをイメージできるようにした。

ア 探究の過程を取り入れた授業の実践

探究の過程の視点に沿って学習指導案を作成し、研修員の所属校で授業実践を計画した。

イ アイディアを共有する教員研修会

探究的な学習に関する研修会の進め方や使用するスライドなどをまとめた。また、ワークショップで

授業づくりのアイデアを共有できるように「単元デザインシート」を作成した（図3）。

探究的な学習 単元デザインシート			
(1) 単元は？			
学年・教科	単元名	時数	
年	科	時間扱い	
(2) それぞれの過程に重点的に取り組む時間を決めましょう。			
① 課題の設定	② 情報の収集	③ 整理・分析	④ まとめ・表現
時間目	時間目	時間目	時間目
(3) それぞれの過程で取り入れる活動のアイデアを書き出してみましょう。			

図3 単元デザインシート

5 実践研究

(1) 授業実践

① 目的

探究の過程を取り入れた各教科での授業づくりが、児童生徒が主体的・協働的に学び続ける力の育成に有効であるかを検証する。

② 授業実践の対象

以下に示す学校で授業実践を行った（表8）。

表8 授業実践の内容

実践校	実施教科（実施学年）・単元	実施日
大崎市立古川第二小学校	社会（第4学年） 「ごみのしよりと利用」	10月31日
白石市立東中学校	外国語（第1学年） 「Foreign Artists in Japan」	10月18日
南三陸町立志津川中学校	数学（第2学年） 「平行と合同」	10月23日
宮城県古川黎明中学校	数学（第3学年） 「円」	10月3日

③ 授業実践の内容

単元の1時間目に当たる授業実践では、探究の過程「①課題の設定」を取り入れた。児童生徒に課題意識を持たせたり、話し合わせたりする場面を設定した。2時間目以降は実践校の教員が行った。

ア 大崎市立古川第二小学校の実践例

(7) 単元計画

以下に単元計画の一部を示した（表9）。教科書は、「東京書籍 新しい社会4」である。

(1) 授業の様子

導入では、1日で廃棄されるごみの量やごみの処理について画像を提示し、学習課題に対して疑問や関心を持たせる場面を設定した。自分たちが出したごみについて「だれが」「どこへ」「どのように」処理するのかについてGoogle Jamboardに考えを記入し、グループで共有した。グループ活動を通して、児童は互いに新しい気付きや疑問を持つことができた。その後、各グループの考えを基に学級の予想を立て、ごみに関する疑問を出し合い、次時以降の学習課題を設定した。

表9 単元計画の一部（大崎市立古川第二小学校第4学年）

時	主な学習活動【探究の過程】
1	<ul style="list-style-type: none"> ・家や学校等から出るたくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習課題を設定する。 【課題の設定】 自分の出したごみが、だれが、どこへ、どのように運んでいるか興味・関心を持ち、どのように処理されているか疑問を持つ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や資料から大崎市のごみ処理について調べる。 【情報の収集】 ごみ処理について、大崎市の様子を市報、教科書、インターネットなどを使って調べ、級友と情報を共有する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をまとめ、更に調べることにについて話し合う。 【整理・分析】 ステップチャートを使い、ごみがどのような順番で処理されているかを整理する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを減らすために自分たちができることについて、考えをまとめ、発表する。 【まとめ・表現】 ごみ処理の仕方やごみを減らすために自分たちができることを話し合い、考えた取組を発表し合う。

イ 白石市立東中学校の実践例

(7) 単元計画

以下に単元計画の一部を示した（表10）。教科書は、「東京書籍 NEW HORIZON English Course1」である。

(4) 授業の様子

A L Tからの依頼を具体的なコミュニケーション場面として設定し、単元のゴールを明確に示した。展開では、課題解決に向けて「知りたいこと」や「疑問」を書き出す活動を行った。生徒は「どのような伝統文化があるか調べたい」「英語の表現を知りたい」などの考えを書き出していた。グループ活動では、考えを伝え合い、新たな気づきをメモに取るなどして、考えを広げることができた。

表10 単元計画の一部（白石市立東中学校第1学年）

時	主な学習活動【探究の過程】
1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元目標と学習内容を知り、日本の伝統芸能や伝統芸能の職業と仕事内容に関する英語の表現を知る。 【課題の設定】 日本の伝統芸能や伝統工芸を仕事にしている外国人について、「知りたいこと」や「疑問」を書き出し、単元の学習に関心を持つ。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための必要な情報を集める。 【情報の収集】 「知りたいこと」や「疑問」について情報を集める。また、紹介したい人物について、必要な情報を集める。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理し、紹介文を書く。 【整理・分析】 集めた情報を整理し、伝えたい内容の順番を考える。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・A L Tに日本の伝統芸能や伝統工芸を仕事にしている外国人を紹介する。 【まとめ・表現】 日本の伝統芸能や伝統工芸を仕事にしている外国人を紹介するために、聞き手に分かりやすい表現を考える。

ウ 南三陸町立志津川中学校の実践例

(7) 単元計画

以下に単元計画の一部を示した（表11）。教科書は、「東京書籍 新しい数学2」である。

(4) 授業の様子

星形五角形の角の和の求め方を単元の最後の課題

として設定し、見通しを持たせた。どのようなことが分かれば求められそうか整理して、多角形の内角の和について考える活動に入った。生徒は、単元の課題を共有したことで、課題意識を持って学習に取り組んでいた。

表11 単元計画の一部（南三陸町立志津川中学校第2学年）

時	主な学習活動【探究の過程】
1	<ul style="list-style-type: none"> ・星形五角形の角の和の求め方について考える。 ・算数で学習した三角形の角の和が 180° であることを基にして、四角形、五角形、…などの多角形の角の和の求め方を説明する。 【課題の設定】 星形五角形の角の和の求め方を単元を貫く課題として設定し、平行と合同に関する具体的な事象・問題を自分自身の課題として考える。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・平行線と同位角の関係を、基本性質として確認する。 ・平行線と錯角の関係を、平行線と同位角の関係をもとにして説明する。 【情報の収集】 多角形の角についての性質、平行線や角の性質、平面図形の合同の意味、三角形の合同条件、証明の必要性と意味及びその方法など、問題解決に必要な知識・技能を身に付ける。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の内角の和が 180° であることを、平行線の性質をもとにして説明する。 ・証明の意味を知る。 ・三角形の外角は、となり合わない2つの内角の和に等しいことを見いだす。 ・三角形の内角、外角の性質や多角形の内角の和、外角の和の性質を利用して、角の大きさを求める。 【整理・分析】 平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを論理的に確かめたり、証明の方法を考えたりすることを通して、知識を整理する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・星形五角形の角の和が 180° であることを、多角形の内角の和、外角の和や平行線の性質をもとに説明する。 【まとめ・表現】 星形五角形の角の和が 180° であることを、多角形の内角の和、外角の和や平行線の性質を基にして説明する。

エ 宮城県古川黎明中学校の実践例

(7) 単元計画

以下に単元計画の一部を示した（表12）。教科書は、「数研出版 これからの数学3」である。

表12 単元計画の一部（宮城県古川黎明中学校第3学年）

時	主な学習活動【探究の過程】
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ある地点から目印を見たときの、2つの目印を見込む角度から、地図上の位置を求める方法を考える。 【課題の設定】 大崎市の地図上で教員がいる場所を特定することを単元を貫く課題として設定し、円周角に関する具体的な事象・問題を自分自身の課題として考える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・円周角の定理の証明、角の大きさを求める。 【情報の収集】 円周角の定理など、問題解決に必要な知識・技能を身に付ける。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・円周角の定理の逆を証明するために場合分けを行うことの意味を知る。 【整理・分析】 円周角の定理の逆が成り立つことを考えたり、論理的に確かめたりして、円に関する知識を整理する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ある地点から目印を見たときの、2つの目印を見込む角度から、地図上の位置を求める。 【まとめ・表現】 円周角の定理やその逆などを活用した問題解決の過程を発表することで、考えたことをまとめ・表現する力を身に付ける。

（イ）授業の様子

大崎市の地図上で教員がいる場所を特定することを単元を貫く課題として設定した。生徒は、大崎市にある道路や建物の立地を踏まえて考えたり、数人で話し合いながら解決方法を探ったりしていた。考えを共有する場面では、発表している生徒の考えを聞き、点の軌跡が円を描いている様子を確認できた。

④ 児童生徒のアンケート調査結果から

授業実践前と単元終了後に、それぞれの探究の過程について、主体的・協働的な学びに関する意識の変容を調査した。その結果、全ての探究の過程において、肯定的に回答した割合が増加した（表13）。

また、「探究の過程について意識していることや工夫していることの記述」では、児童生徒が課題を自分に関係のあることと捉えて学習に取り組んだり、他者と関わりながら、相手意識を持って学習を進めたりする記述が見られた（表14）。探究の過程を取り入れた各教科の授業づくりによって、課題意識や相手意識を持った学習への取組につながったと考えられる。一方、探究的な学習における探究の過程を十分に捉えられていないような記述も見られた。

表14 児童生徒へのアンケート調査の回答（一部抜粋）

①課題の設定	○結論を意識した課題にする。 ●分からないことに取り組んでいる。
②情報の収集	○単元で学んだことをまとめて、それらのことを生かしながら解き方を考えている。 ●情報の収集で意識していることや工夫していることが分からない。
③整理・分析	○グラフや表にまとめて分かりやすく整理するようにしている。 ●多くの教科書を読む。
④まとめ・表現	○課題を解決するために何を使ったのかどのように解いたのか見たり、自分にはなかった友達の発想も自分なりに考えた。 ●予習復習をしっかりとる。

（2）教員研修会

① 目的

教員が探究的な学習に関して理解を深めることができる研修会であるかを検証する。

② 対象

以下に示す学校で教員研修会を実施した（表15）。

表15 研修会の対象

実践校	対象	実施日
大崎市立古川第二小学校	教員（35名）	10月31日
白石市立東中学校	教員（21名）	10月18日
南三陸町立志津川中学校	教員（17名）	10月23日
宮城県古川黎明中学校	教員（19名）	10月3日

③ 教員研修会の内容

オリエンテーション、ワークショップ、コンプリーションの流れで行った。小学校では学年ごと、中学校では教科ごとにグループを構成した。オリエンテーションでは、各教科における探究的な学習について説明した。ワークショップの前半では、授業づくりの進め方を説明し、探究の過程を取り入れた授業づくりを行った。授業づくりでは、単元計画を基にそれぞれの探究の過程を取り入れる時間と活動のアイデアを考える場面を設定した。ワークショップの後半では、それぞれの探究の過程で取り入れる活動のアイデアについて、意見交換する時間を設定した。コンプリーションでは、まとめを行い、研修会のねらいを確認した。

④ 教員のアンケート調査結果から

ア 研修会前後のアンケート調査結果から

研修会の前後に、探究的な学習の理解や探究の過程の取り入れ状況、授業づくりにおける工夫や児童生徒の変容などについて調査した（図4）。

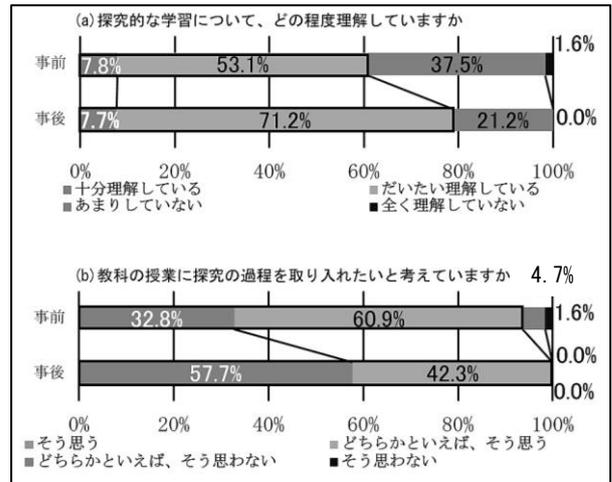


図4 教員アンケート調査（事前n=64、事後n=52）

表13 児童生徒アンケート調査（事前 n=310、事後 n=298）「十分できている」「おおよそできている」と回答した割合（%）

探究の過程	質問事項	単元前	単元後	変容
①課題の設定	（主体的）・単元の目標に対して、目的意識や課題意識を持って学習に取り組んでいますか	73.2	80.9	7.7
	（協働的）・課題を違う角度から見たり、深めたりするときに、他の人の意見を参考にしようとしていますか	80.4	83.6	3.2
②情報の収集	（主体的）・課題の解決に向けて必要かどうかを考えて、情報を集めていますか	77.4	81.9	4.5
	（協働的）・課題の解決に向けて、他の人と情報を共有していますか	80.0	85.2	5.2
③整理・分析	（主体的）・課題を解決するために、集めた情報を分類したり、関連付けたりしながら、諦めずにいろいろな方法を試していますか	76.8	78.9	2.1
	（協働的）・自分の考えを広げたり、深めたりするために、他の人の意見を参考にしようとしていますか	87.1	90.0	2.9
④まとめ・表現	（主体的）・学習の進め方を振り返り、次の学習に生かそうとしていますか	80.3	82.3	2.0
	（協働的）・課題について相手意識や目的意識を持ってまとめたり表現したりしていますか	71.9	79.2	7.3

「(a) 探究的な学習について、どの程度理解していますか」に対して肯定的に回答した割合は、研修会前では60.9%、研修会後では78.9%であった。

「(b) 教科の授業に探究の過程を取り入れたいと考えていますか」に対して肯定的に回答した割合は、研修会前では97.3%、研修会後では100%であった。また、研修会後のアンケート調査の記述では、以下の回答が得られた（表16）。

表 16 アンケート調査記述内容（一部抜粋）

肯定的な意見	今までは、探究の過程を授業にどのように取り入れればよいか分からなかったが、研修会に参加することで理解できた。
否定的な意見	総合的な学習の時間や社会では探究の過程に当てはめて進めることで思考が深まると思うが、他の教科では全単元に当てはめられるかと考えたときに難しいと感じた。

調査結果から、教員の探究的な学習に対する理解の深まりや、実践意欲の高まりが見られ、研修会の成果を確認できた。一方、教科や単元の内容によって探究の過程を取り入れることに難しさを感じている教員がいることが分かった。

イ 研修会1か月後のアンケート調査結果から

研修会1か月後に、探究的な学習の取り入れ状況を調査した。質問事項「教科の授業に探究の過程を取り入れましたか」に対して、肯定的に回答した割合は80.0%であった（図5）。

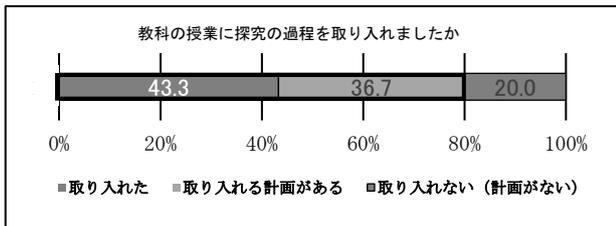


図5 探究的な学習の取り入れ状況の割合 (n=26) *1

また、調査の記述では、探究の過程を取り入れた工夫や児童生徒の変容、探究の過程を取り入れた授業づくりについて以下の回答が得られた（表17）。各教科に探究の過程を取り入れた授業づくりを実践することで、探究的な学習の良さや児童生徒の変容を感じ取ることができた記述が見られた。

一方、探究の過程を取り入れた授業づくりが取り組めていない教員がいることが分かった。探究の過程を取り入れた授業について、教員研修会等で提示した教科の具体例が少なかったことが原因だと考えられる。

表 17 アンケート調査記述内容（一部抜粋）

肯定的な意見	<ul style="list-style-type: none"> 最終目標となる課題について、少しずつ知識を学びながら進める単元構成に工夫した。 ただ教えられていた時よりも考えている様子があった。授業後の感想にも、できるようになった、分かったという記述が増えているように感じた。
否定的な意見	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を取り入れた授業を行いたいが、単元のどの活動が探究と言えるのかまだ曖昧な部分もあり、この単元に取り入れた、と言えるのかどうか分からないので、まだ実施していない。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

① 授業実践を通じた児童生徒の変容

探究の過程を取り入れた指導過程を通して、児童生徒が自ら進んで学習に取り組んだり、他と関わ合いながら学習を進めたりする姿が多く見られるようになるなど、主体的・協働的に学ぶ姿が確認できた。また、単元終了後のアンケート調査では、全ての項目で授業実践前よりも肯定的に回答した割合が上回ったことから、児童生徒が主体的・協働的に学び続ける一助になったと考える。

② 教員研修会を通じた探究的な学習の理解

教員が指導過程を探究の過程の視点で捉え直すことで、児童生徒の主体性を引き出したり、協働的に学ぶ場面を作り出したりするイメージを持つことにつながった。各教科での探究の過程を取り入れた授業づくりを推し進めるきっかけになったと考える。

(2) 課題

① 児童生徒の探究的な学習の理解

探究の過程について十分に捉えられていない児童生徒がいた。児童生徒に対して、探究的な学習の進め方や良さを伝える手立てについて考える必要があった。

② 探究の過程を取り入れた授業づくり

教科や単元によっては、探究の過程を取り入れるイメージを持ちにくいという教員からの意見があった。探究的な学習のより深い理解につながるよう、研修会で各教科の例を示す必要があった。

7 おわりに

本研究では「探究的な学習 教師の3つのアクション 教科編」に沿って、授業づくりの手立てを講じてきた。成果と課題を踏まえ、探究的な学習サポートパック教科編「きょうから探究」としてまとめた。今後はこのサポートパックを基に、本研究の普及に励んでいく。

【注釈】

*1 調査結果の割合は小数第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省：「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」、2021
- 2) 文部科学省：「学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」、2017